

兵庫・坂元遺跡

さかもと

する。

調査の結果、奈良時代以前では縄文晩期の埋甕と弥生時代中期後半の方形周溝墓・竪穴住居・水田を、古墳時代では竪穴住居・掘立柱建物・埴輪窯・水田を検出した。奈良時代の遺構は、前半と後半に分けられ、遺構の主軸方向を大きく変えている。前半はほぼ南北方向に主軸をとつており、竪穴住居・掘立柱建物・水田を検出した。

柱建物・埴輪窯・水田を検出した。奈良時代の遺構は、前半と後半に分けられ、遺構の主軸方向を大きく変えている。前半はほぼ南北方向に主軸をとつており、竪穴住居・掘立柱建物・水田を検出した。

柱建物・埴輪窯・水田を検出した。奈良時代の遺構は、前半と後半に分けられ、遺構の主軸方向を大きく変えている。前半はほぼ南北方向に主軸をとつており、竪穴住居・掘立柱建物・水田を検出した。

柱建物・埴輪窯・水田を検出した。奈良時代の遺構は、前半と後半に分けられ、遺構の主軸方向を大きく変えている。前半はほぼ南北方向に主軸をとつており、竪穴住居・掘立柱建物・水田を検出した。

柱建物・埴輪窯・水田を検出した。奈良時代の遺構は、前半と後半に分けられ、遺構の主軸方向を大きく変えている。前半はほぼ南北方向に主軸をとつており、竪穴住居・掘立柱建物・水田を検出した。

柱建物・埴輪窯・水田を検出した。奈良時代の遺構は、前半と後半に分けられ、遺構の主軸方向を大きく変えている。前半はほぼ南北方向に主軸をとつており、竪穴住居・掘立柱建物・水田を検出した。

柱建物・埴輪窯・水田を検出した。奈良時代の遺構は、前半と後半に分けられ、遺構の主軸方向を大きく変えている。前半はほぼ南北方向に主軸をとつており、竪穴住居・掘立柱建物・水田を検出した。

柱建物・埴輪窯・水田を検出した。奈良時代の遺構は、前半と後半に分けられ、遺構の主軸方向を大きく変えている。前半はほぼ南北方向に主軸をとつおり、竪穴住居・掘立柱建物・水田を検出した。

柱建物・埴輪窯・水田を検出した。奈良時代の遺構は、前半と後半に分けられ、遺構の主軸方向を大きく変えている。前半はほぼ南北方向に主軸をとつおり、竪穴住居・掘立柱建物・水田を検出した。

坂元遺跡は、加古川の東約1kmの沖積地及び段丘面に立地する。

縄文時代から中世に至る複合遺跡であるが、遺跡の中心は奈良時代である。

遺跡の南側には古代の山陽道が通つており、山陽道に面していることが遺跡の大きな特徴である。南東40mには賀古駅家に比定されている古大内遺跡が所在



(高砂)

8 木簡の釈文・内容

(1) 「△急々如□□」



「V□□□」

288×32×5 032

□□□

(602)×37×9 059

(4) 「順礼□□□」

・「□□□」

107×31×3 011



(2)



(1)



(3)

(1)(2)はほぼ同種同形のもので、板目材で頭部は丸く、左右に切り込みを入れている。基部は直線ではなく、両側から削り尖らそうとしているが先端は直線である。墨痕が残っているだけで、保存状態は悪い。(1)は「急々如律令」と記されていたとみられ、同形同大の(2)とともに、呪符であろう。(3)は板材で丁寧な作りではなく、平坦でなく曲がっており、下端は尖らせてある。長大な木簡であるが、判読できない。(4)は短冊型で薄く丁寧なつくりである。板目材で表裏両面に墨痕が認められるが、内容は不明である。

9 関係文献

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所『平成一六年度年報』

(一〇〇五年)

(渡辺 昇)

(4)赤外線斜光撮影

